

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑬⑩

今月1日から2023年
用年賀はがきが発売された。
今年の発行枚数は約16億4
千万枚。メールや交流サイ

思ったのが最初の発想で
す。それにクジのお年玉を
つけ、さらに寄付金を加え
れば夢もあり、社会福祉の
ためにもなると考えた」そ
うだ。

ト(SNS)の普及で減少傾
向が続くが、一筆添えるだ
けで心がこもる手紙の文化
も忘れたくない。年賀はが
きの楽しみといえばお年玉。
今回は日本初のお年玉付き
年賀はがきを紹介する。

当時の景品は、特等がミ
シン、1等が純毛洋服地、
2等が学童用グロブ、3
等が学童用こもり傘、4
等がはがき入れ、5等が便
箋と封筒のセット、6等が
切手シート。家庭で洋裁が
盛んになったことやベビ-

お年玉付き年賀はがきが
発行されたのは、1949年
12月1日。50年用の年賀はが
きからである。2円の青色と
1円の寄付金が付いた3円

その後の最高景品の推移
を列記すると、電気洗濯機
(56年)、タンス(58年)、
ステレオ(61年)、35ミリ
カメラ(62年)、8ミリ撮
影機(63年)、ポータブル

お年玉付き年賀はがき

景品にも世相興味深く



赤)2円+1円(寄付金)と青)2円
のお年玉付き年賀はがき。1949年
発行の「松くい鶴」の料額印面(左と
右)の番号(右)



テレビ(65年)、トランジ
スターテレビ(68年)、カ
セットテープレコーダー
(72年)、折りたたみ自転
車(75年)、コンパクトカ
メラ(80年)、カラーテレ
ビ(83年)、電子レンジ(84
年)となる。

来年の1等は3種類。現
金30万円、電子マネーのギ
フト31万円分、2022年
発行特殊切手集と現金20万
円のいずれかとのこと。「モ
ノ」より「カネ」の時代な
のだらうか。景品にも世相
が表れていて興味深い。

(専門学芸員・平井誠)

〈随時掲載します〉